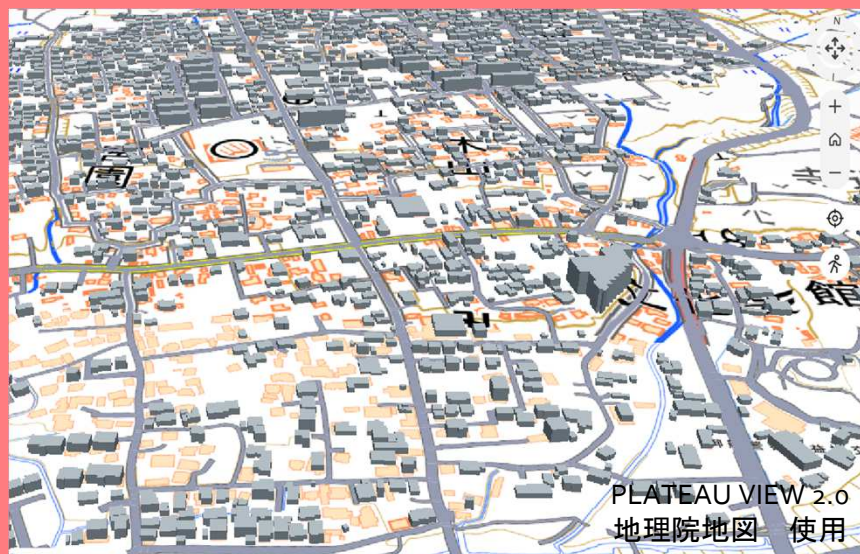


3D都市モデルの活用

～復興に伴う道路整備検討～



熊本県益城町都市計画課

1. 益城町概要

熊本県 益城町

熊本県のほぼ中央から
やや北寄り、
熊本市に隣接



熊本県
益城町

人口

人口	34,036人
世帯数	14,416世帯

(2023年12月末時点)

空港やIC（2か所）
があり、
“空と陸の玄関”
を有する

面積

市街化 区域	466.0 ha
市街化 調整区域	6,101.0 ha
全域	6,567.0 ha

(2021年3月末時点)

北西部では、熊本市のベッドタウンとしての機能を持つ上、インター付近に流通拠点を形成している。中央部は、田畑が点在しており、都市部と農村部が融和する都市。

2. 益城町の3D都市モデル整備状況

3D都市モデルの整備状況（令和5年度更新予定）

LOD	整備地物	対象区域	整備面積
LOD1	建築物	町全域	65.68km ²
LOD1	交通（道路） 都市計画決定情報 土地利用 災害リスク 地形	町全域	65.68km ²
LOD2	建築物	益城町新庁舎	0.08km ²

- ・令和2年度 町内全域をLOD1で整備
- ・令和5年度 町内全域を更新予定
- ・PLATEAU VIEWへの掲載
- ・益城町ホームページ公開型GISサイトの掲載予定

3. 益城町の課題

熊本地震からの復興

平成28年4月に発生した熊本地震により甚大な被害を受けたが、現在は土地区画整理事業、都市計画事業等を実施し、復興に向けたまちづくりを行っている。

復興に伴う街並みの変化にあわせた、交通の移動円滑化とより安全に歩ける道路整備が求められている。

3D都市モデルの活用

各関係機関への事業認可を取得するための事業説明や、合意形成に伴う住民説明等を円滑に進めたい。

4.活用案①

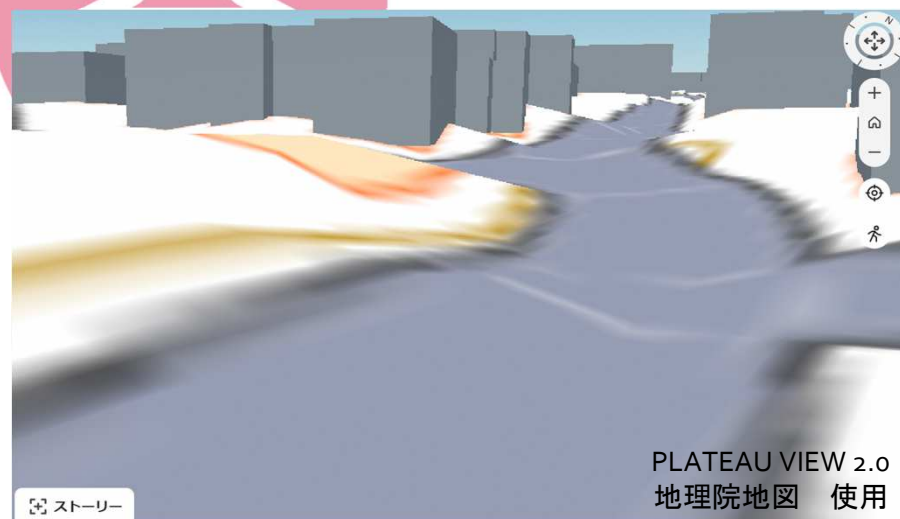
開発等に伴う周辺道路網へ与える影響の検討



発生交通量だけでなく、周辺の建築物の用途も把握することで、交通量増加が予想される沿線の状況がわかりやすくなり、求められる整備の検討精度が向上する。

土地の形状の情報が加わることで、通過車両速度の予測など、安全面における課題確認ができる。

建築物だけでなく塀や垣も表示できれば交差点からの視距が確認できより必要な対策が見えてくる。



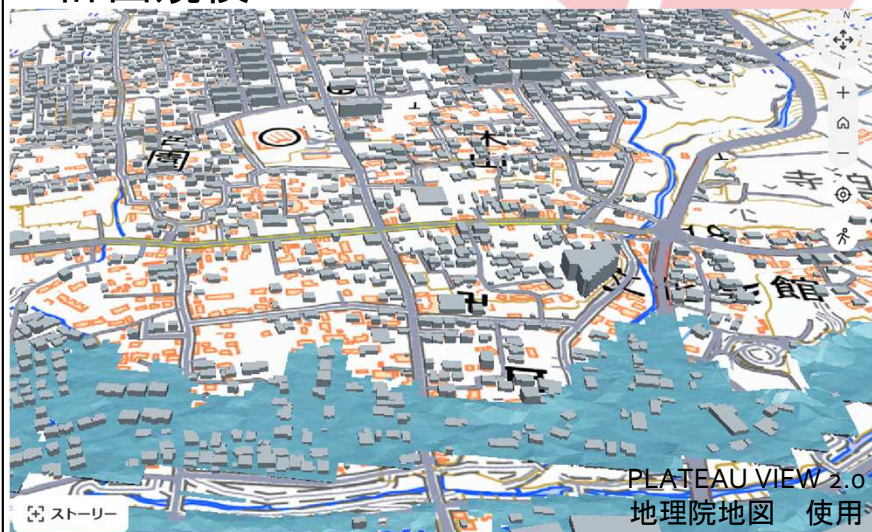
5.活用案②

避難路整備への活用

浸水想定区域のデータを活用することで、道路の水没状態も確認でき、避難経路の検討にも使用できる。

新たな避難路整備するには、必要性がより伝わりやすい。

計画規模



想定最大規模



6. 今後の展望

3D都市モデルの活用構想

**可視化することでイメージしやすくなるのはもちろんのこと
住民には馴染みのない都市計画を身近に感じてもらう狙いもある。**

**建物用途や用途地域を重ねることで、
現在の土地利用が見えてくる。**

**道路だけでなく、下水等の地下施設を
導入することで
都市計画全体の効率的な整備に
つながる可能性がある。**



情報を追加し**付加価値**を高めたい

産官学連携で開発した柿ジャムを カルディコーヒーファームで全国販売



- 町の主要農産品である太秋柿（たいしゅうがき）を使った「柿ジャム」を開発しました。
 - 益城町の秋の風物詩「太秋柿」はみずみずしく、サクッとシャリシャリの食感と上品な甘さが特徴。太秋柿と砂糖とレモン果汁のみで作り上げ、太秋柿本来の美味しさをそのまま楽しめます。
 - 見た目や形状が基準に満たず商品とならない規格外の町産太秋柿を使用し、食品ロスを削減するSDGsにつながる取り組みとなっています。
- 株式会社もへじ、上益城農業協同組合、日本航空株式会社、益城町が連携して開発しました。
- 全国のカルディコーヒーファーム（500以上の店舗）で、令和6年1月15日より順次発売しております。
- 農業が盛んな益城町の農産物を活用した商品を開発し、販売することを通じて、県内外へ益城町のプラスイメージを発信し、より多くの商業流通の展開や交流人口の増加など、地域活性化を目指します。